ゴミを考える

意識改革の時代

家の中を見渡せば、新聞紙や雑誌が山のようになり、あたりに生ゴミの悪臭がたち込め、道路には空ビン・空き缶が散乱している。しかも、ゴミは減るどころか無限の一途。これが現実となったらと思うと、ゾーとします。ゴミの処理は、今日の生活水準を保つためのまさしく〝待ったなし〟の仕事なのです。

しかしこの仕事、簡単そうで難しいのが現実です。重要性は分かっていても、文化生活に慣れ、ゴミの自家処理が遠い昔のことになってしまった私たちには、その危機感すら伝わりにくいものになってきています。

ゴミ処理に魔法はありません。燃やしても灰が残り、燃えない金属類、ビン類が埋立地をどんどん満杯にしていきます。ゴミはまちの外へ持っていけばという発想は、根本的解決には結びつきません。それどころか、大都市で発生する大量のゴミが地方へ流れ、地元では住民の怒りの声さえ上っている地方もあり、自治体間のモラルにまで発展しつつあります。

こうしたゴミの現実に直面して、私たちは何をしていかなければならないのでしょうか。それは、「自分たちの出したゴミは、自分たちで処理する」というまちづくりの原点に立ち返ることです。ゴミの分別化や減量化などゴミの問題を軽んじないで、市民一人ひとりが頑固なまでの方針を持って暮らしていくことです。今私たちは、ゴミ意識改革の時代を迎えたのです。

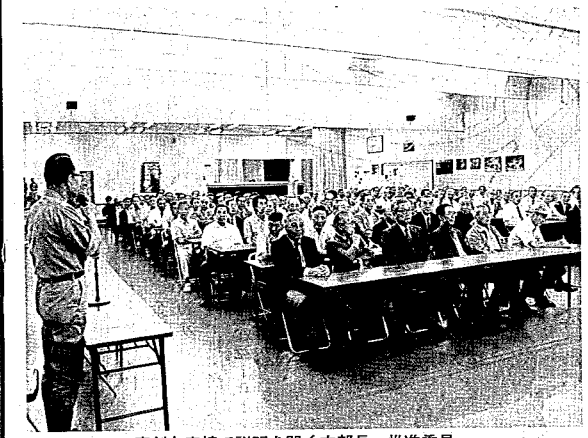
■研修報告■ 分別からはじまる古紙再生

盛況だった公衆衛生協会の研修会

皆さんは、新津市公衆衛生協会をご存じですか。市内各町内の代表者から構成されている住民組織ですが、ゴミなど環境に対する市民意識を高めることに努力しながら、市とともにさまざまの事業を行っています。

今年のテーマは、「限りある資源を有効に活用するために」です。市では、今年の秋から古紙を対象とした「全市一斉有価物回収事業」をスタートさせる予定ですが、これにさきがけ、市公衆衛生協会では、古紙の資源活用の実態について研修しました。

この研修会は、支部長、推進委員など総勢百五十九名の参加を得て、七月十日行われました。研修では、私たちの家庭などから回収された古紙がどのような経過を経て新しい紙に再生されていくのか、二つの工場の施設を見学しました。今号では、この研修をリポートします。



真剣な表情で説明を聞く支部長、推進委員
(北越製紙・新潟工場にて)

一枚一枚手選別でたいへんな労働必要

「信越商事下木戸工場」…ここは、以前新聞でも紹介されたことのある古紙直納問屋です。工場内は、県内外から集められた古紙が、新聞・雑誌・段ボールに分別されたのち、大型梱包機で梱包され、うず高く積まれていました。ここで驚いたことは、分別作業の方法でした。

おおぜいの従業員が、資源回収業者やチリ紙交換業者が運び込んでくる古紙を、一枚一枚手選別で選別（業界用語で、紙として再生できない品物のことで、ポリ袋・銀紙・ガムテープ・ビニール・カーボン紙など）を取り除いていたことです。

社長さんの話では、古紙は種類によって用途が違い、それぞれ異なった原料として使われるため、用途の違う古紙が混入していると再生利用ができなくなるんだそうです。有価物回収には、「古紙を生かし良質の紙を作るためにも、古紙をよく分別して出してもらいたいですね」と話していました。

参加者の一人は、「有価物回収に、新聞と雑誌は分別して出さなければならないことは、十分承知していました。でも少しぐらい交じっていても良いだろうと思っていました。これだけ労力をかけて分別しているのを見ると、有価物回収には、やはりもっと気を配って分別しなければねえ」。古紙の資源化の第一歩は〝分別にあり〟でした。

古紙から紙を作るとエネルギーは1/3

「北越製紙新潟工場」…ここでは、木材、チップ、古紙などの原料から紙ができあがるまでの工程をスライドで見ながら説明を受けました。製紙会社では、古紙はすでにパルプ工程を通った原料とみなされていて、木材から紙を作る場合と比べると、古紙からの紙の再生は、電力やエネルギー消費量が三分の一で済んでしまうそうです。

一トンの古紙から八百五十キログラムの古紙パルプを作ることができ、このパルプ量は、直径十四㌢、高さ八㌢の立木二十本分に相当するそうです。

地球環境保全や限りある資源の有効利用からも、有価物回収を積極的に進めなければならないことが理解できました。説明を受けたのち、オートメ化されほとんど無人となった工場を見学しました。参加者全員、紙の製造工程を見たのは初めてで、驚いたりうなづいたりする場面がたびたびありました。なお、この工場では、現在再生紙の製造プラントを建設中でした。

お買物、ご用命は市内で

“今こそ素肌で”
サマーキャンペーン 8/1～20
紫外線の害・シミを防ぐには！
粉おしろい5,000円 フローテー大7,000円 セット購入の方に石けんプレゼント！（正しいお手入れ方法を指導します）
長崎屋内 デリカ家 ☎(24)7936

お住まいの水まわり
見直して見ませんか
浴室 キッチン トイレ ……
水まわり増改築専門店
システムショップ かねみや
本町2 ☎24-1630

工科大学は柏崎市に決定

平成六年度開学に向け焦点となっていた新潟工科大学の設置場所が、さきごろ柏崎市に決定しました。新津市誘致を市民一丸になって進めてきただけに、ほんとうに残念な結果となりました。しかし、私たちは、こうした運動の中で、多くの遺産を得ることができました。今号では、新潟工科大学誘致に向け市民運動にまで盛り上がった経過を振り返ってみます。

新津市の立地を市民あげてアピール

新潟工科大学は、県内において将来的に不足する技術者の養成大学として、県内企業が設立を進めてきたものです。その規模は、設置学科でいうと機械系、電気系、化学系の三学科、募集人員は一学年三百六十人と予定されています。

平成二年六月、この構想発表をうけて、市では誘致の調査・研究に着手しました。一方市民の間には、「わがまちに大学を」という気運が少しずつ膨れ上がっていきました。今年四月には、新津市のみならず、三市中蒲原の商工会議所を中心に「新潟工科大学を誘致する会」が設立され、強力な市民運動に発展しました。かつてない盛り上がりの背景には、〝文化の香る都市づくり〟への強い願望があり、また、大学経営には自然環境や県都に近いなど立地条件が大きな要件になることから、新津という品質に市民一人ひとりが自負心をもっていたともいえました。

誘致運動が進められる中で当初新潟市、西蒲弥彦・岩室村を含む五か所が設置候補地となり、最終的に新津市と柏崎市に絞られていきました。

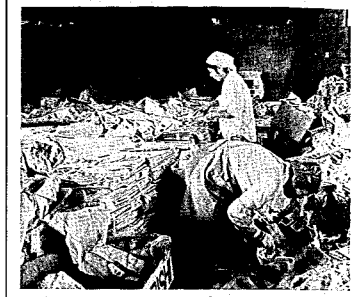
教訓を生かしさらなる発展を

新津市設置の最大の問題は、財源確保でした。資金計画は場所選定の大詰段階で明らかになりましたが、建設資金は用地費を除き百三十億円（見込額）。資金調達は、県が三分の一の四十三億円、新津市が三十億円、周辺自治体が七億円、残りの五十億円を設立同盟会を中心とした寄付金で賄うというものでした。

原爆犠牲者に黙とうを

広島、長崎に原爆が投下されてから四十六年になります。両市では、今年も被爆の日に、犠牲者の慰霊と平和祈念の式典を行うとともに、全国民に一分間の黙とうを呼びかけています。時間は、広島が八月六日の午前八時十五分、長崎が八月九日の午前十一時二分です。

当市は、昭和六十年に「非核平和都市宣言」を行い、平和なまちづくりをめざしています。皆さんも、この日は、原爆で亡くなられた人の霊を慰め、恒久の平和を願い、それぞれの家庭や職場で黙とうされるようお願いします。



古紙分別作業中の従業員
(信越商事・下木戸工場にて)

古紙はこのような紙製品になります

古紙品種名		主な紙製品名
段ボール	→	段ボール箱
新聞	→	新聞紙
雑誌	→	洗剤の箱 菓子箱など
模造・色上	→	ちり紙 トイレットペーパー

た。市では、市議会と協議しながら、これだけの資金を拠出すれば市民生活に重大な影響を及ぼすとし、その実情を県、設立同盟会に説明しました。

今回の運動を経て、財政基盤の充実と広域圏的な取り組みの重要性が教訓として残されましたが、市民が一つにまとまり、新津の名を全県的に知らしめたことは、新津市の発展に大きなプラスとなったのではないでしょうか。

お買物、ご用命は市内で

新発売
新世界名菓 石油の果
桃山をつかった高級和菓子です
コーヒー祭 8月2・3・4日
にいつ 大サカヤ ☎22-0112

新光商店街サマーセール実施中！
斑尾高原ペアーの旅
— 100円のお買物で50組100名様をご招待 —
8月1日より12日まで北越銀行前で
補助券30枚で1回抽せんできます